

□□□□□□

みんなのスペース

◆あて先・問い合わせ 〒028-1392 (住所不要) 山田町役場総務課情報係 ☎82-3111内線417) へ。

「岩手国体 二度目の参加」

先日10月1日(土)、第71回いわて国民体育大会に一般参加をした。一度目の参加は昭和45年10月第25回の岩手国民体育大会でした。盛岡で、高校一年生の私は『合唱』でメインスタジアムで『国歌斉唱』『いわて県民歌』『若い力』そして次の国体開催県の『和歌山県民歌』を賛唱したことは忘れえぬ思い出でした。まさかもう一度『岩手国体』に参加する日が来るなんて…。すぐにチケット申し込み、46年前のあの日と同じ秋晴れの暑い開幕となりました。オープニングでの伝統芸能などなど、

そして東日本大震災の話題が出ると、一般参加の中からすすり泣きが聞こえた。あの時の悲しみと苦しさを乗り越えて一般参加した人たちの復興への歩みへの感謝は、岩手国体の感動の涙が溢れた素晴らしくさわやかな開幕の一日目となりました。国体開会式終了後、あふれる熱気を背に『新聞号外』を受け取り、感動!!の帰途に着きました。

黒沢 頼江(船越・61)

「古希に感謝」

震災による被災者および犠牲者の方々の心情を思うと浮かれてもいられません。両親は早くも他界し、親の年齢を越え早くも70歳という年齢となり、古希を迎えて感謝する次第であります。人生は決して平たんな道程ばかりでなく私の身にも多くの試練が有りました。「窮して変じ、変じて通す」の言葉を脳裏に大半のことは乗り越えてきたつもりです。病気に闘っては今日まで大きな病は無く、無知のために医者にもお世話賜り、心より感謝いたします。また多くの方々から多大なるご支援とご愛顧を賜り、古希の節目を振

り返ってみれば、今日までの道程が懐かしくありがたい言葉に勝るものはないと思います。

山崎 泰司(船越・70)

やまだ文芸広場

・古里へ 瓦礫潜りて 泳ぎ帰る

・大川 ヒメ子(大沢・72)

・熱帯夜 波間に消えた 妹を 憶い出しては 尚眠られぬなり

・人間 苦きつうんと 呑みこみて

・暮れて行く 秋のかたみの ころろざし 木の葉に包む 露の白玉

・我をすて 己を見れば 恥ばかり

・老夫婦 二人で一つに 思い愛

・秋鮭や 銀に輝き 競りを待つ

・山崎 栄子(船越・67)

・内館 洋一(飯岡・73)

・沼崎 悦子(船越・74)

・わが町に 6F復興住宅 偉容見せ

・佐藤 兼男(荒川)

・みずひき草 四、五本手折りて

・沼崎 悦子(船越・74) ビンに差し

・おしらせ

・白石水車まつりへご参加を

▽日時 11月13日(日) 午前9時半〜

▽場所 白石地区水車小屋

▽内容 農産物の販売、つきたてのお餅やそばのお振る舞い、パーベキュー大会など

◆問い合わせ 白石集落農業者産組合 ☎08001224711790) へどうぞ。

おしどり夫婦トークライブ

おしどり マコ&ケン トークライブ IN 山田・宮古 11/13 2016

◆問い合わせ (タケウチ ☎0901441017139) へどうぞ。

町長室から

希望郷いわて国体へのご臨場と併せ、被災地の復興状況ご視察のため、天皇皇后両陛下が約20年ぶりに本町へお立ち寄りになられ、沿道に詰め掛けた多くの町民が出迎えた。時折小雨の降る中、その様子をご覧になられた両陛下も終始笑顔でお応えになられていた。庁舎に御着きになられた両陛下に震災当時の様子などをお話させていただき、その後、両陛下との会食にも同席させていただいたが、「このような大役がよもや私に巡ってこよつとは」との思いであった。とても和やかな雰囲気でご会食が進む中、料理に使われている岩手県産食材の話となり、今年はマツタケが豊作であることを陛下にお伝えすると、それはよかつたとお喜びになられた。両陛下が交わされる穏やかな会話に同席者からは自然と笑みがこぼれ、お二人のお人柄にただただ魅了させられたひとときであった。

山田町長 佐藤 信逸